

第26回日本疫学会学術総会に参加し

「小児疫学研究における採血方法の開発とその評価」について発表しました

メディカルサポートセンター 山本貴和子、目澤秀俊

鳥取県米子市で行われた第26回日本疫学会総会に2016年1月21日から23日まで参加しました。

今回の日本疫学会はエコチル調査鳥取ユニットセンター副センター長である黒沢洋一先生（鳥取大学医学部健康政策医学分野 教授）が学会長であり、「環境と健康・疫学の挑戦」をメインテーマに開催されました。日本疫学会はエコチル調査関係者が多く参加されている学会であり、成人や高齢者やがん、心筋梗塞などの循環器疾患、運動、栄養など他分野で疫学に精通された先生方が参加されています。

現在、エコチル調査詳細調査では採血検査を行っています。メディカルサポートセンターでは、エコチル調査のような小児を対象とした研究において採血を行う際に、いかにお子さんの負担を軽くできるかを検討し独自の方法を開発しました。本学会ではその成果を発表しました。また、1月23日にはシンポジウム「エコチル調査の未来」と題し、エコチル調査が直面している課題や今後得られた結果をどのように生かしていくべきかについての議論をする場が設けられました。他分野の先生方の協力を得ながら、さらに良い研究を行っていくよう連携の必要性を強く感じました。

